

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部電子情報工学科 3 年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: オーストラリア国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

1

派遣先大学の概要

オーストラリア国立大学は首都キャンベラに位置しており、オーストラリアで一番高い教育水準を誇っています。

留学した動機

将来的には、海外で活躍したいと思っているので、今のうちから留学を通して世界的な視点を持つと思ったからです。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 20 14 年 7 月 ~ 20 14 年 11 月 学部[3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部[3]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 院に行く予定です
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[44.5]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[44.5]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
留学が出来るのは3年からで、4年からは研究があるので、3年からにしました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類がたくさんあるので、入念に読んでください。分からないところは一緒に留学に行く人に聞いて、助け合うと良いです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

手続きが煩雑で分かりにくいので、分からないところは留学先大学に問い合わせをした方が良いでしょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断は時間が限られているので、早めに予定をたてた方が良いでしょう。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIS

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験の期間と留学の期間が重なっていたので、早めに先生のところに救済措置を聞いて回りました。ほとんどの先生は優しいので、代替措置を考えてもらえます。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL の勉強をただけです。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英語に慣れておくことです。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Relational Databases, Business Information Systems, Art and Interaction in New Media, Introduction to Software Engineering.

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業の録音をよく聞いていました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

科目:4 単位: 6 units 学習時間 20 - 30 時間

④学習・研究面でのアドバイス

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

最初の数ヶ月は本当に英語が出来なくて苦勞しましたが、慣れるまで辛抱して勉強をしてください。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学寮

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事は全て出たので、心配はありませんでした。クレジットカードは必須です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特になし。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

16 万円 寮費

・留学に要した費用総額とその内訳

20 万 (航空券 10 万, 保険 2 万 買い物3

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の短期留学の奨学金 月 7 万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮のスポーツクラブに所属していました。友達が簡単に出来るので、ぜひ何かしらやった方が良いです。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

たくさんの留学生がいたので、オリエンテーションや説明会などが充実していました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は夜中まで開いているところがあったので、勉強には最適でした。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

分かりません

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外で就職をすることも選択肢に入りました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特になし

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

いろんな文化、考え方があるので、もっと寛容に、おおらかになり、他の文化を吸収できました。

②留学後の予定

クイーンズランド大学に一学期間留学予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
絶対後悔はしないので、ぜひ一歩踏み出して下さい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 交換留学 派遣先大学: オーストラリア国立大学(Australian National University: ANU)

卒業・修了後の就職希望先: 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業(業界:未定)

派遣先大学の概要

- Asia and Pacific Study, International Relations, Development Study などの分野で世界の中で上位にランクインしている大学。
- アジア太平洋地域からの正規留学生、またヨーロッパやアメリカ各国からの交換留学生が多数在籍する国際色豊かな大学。
- 語学の授業が良い事でも有名(とても速い進捗で進むことでも有名ですが)。
- 他のオーストラリア大都市の大学と比べて、より多くの学生がキャンパス内に住んでいるため、寮内での行事や寮対抗行事が盛んで、その他キャンパス内でのイベントも多数行われている。
- キャンベラは自然が豊かでのどかな町ですが、勉強する場、学生間交流をする場としてとても良い環境。

留学した動機

- 卒業後の進路を決断する前に、より広い世界の中で自分を見つめながら、将来したいことを考えたかったこと
 - 理系から経済学部に進学し何も深められていないという感覚が強かったこともあり、もう少し大学で何かを学んだと言えるくらいの勉強をする時間が欲しかったこと
 - 大学進学で東京に来た際に自分の知る世界がいかに狭いかを感じ、海外というより広い世界で得られることへの期待が増していたこと
 - 学生生活中が一番良い英語力向上のタイミングだと考えたこと
 - 小学生の頃からずっと漠然と留学に憧れていたこと
- などの理由から留学を決意しました。

留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部 [3]年の[夏]学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 留学
- ③ 留学期間: 2014年7月 ~ 2015年6月 学部 [3]年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部 [4]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部 [4]年の[9]月頃に(行う予定)
- ⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[38]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位 []単位 留学後の取得(予定)単位[50]単位
- ⑦ 本学・卒業予定時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業
- ⑧ 本学入学から卒業までの期間: [5]年[]ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由: 就職活動に大きな影響がないと考えたからです。また、卒業後の進路選択前に留学を経験したかったことも理由の一つです。

留学の準備

- ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
ANUからの連絡が予定よりも遅い時がありますが、よくあることのようなので、深刻に心配しないで大丈夫だと思います。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
学生用ビザ。ANUからの案内通りに、送られてきた書類を用いて自分でオンライン申請。5月はじめに申請し、5月後半の健康診断後すぐにビザはおりました。(留学生全員が取得必須の OSHC の手続きを同時に進める必要があります。)
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特にビザ取得のための健康診断以外の健康診断および予防接種はしませんでした。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
留学生1年パックに加入しました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関し

て)

ゼミの単位分割申請を行いました。経済学部の実験は日程的に一つも受けられなかったため、直前の1学期間は他学部の授業のみ履修し、経済学部の授業にはゼミ以外行っておりませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

渡航直前の夏学期に、文学部のアカデミックライティングの授業を履修し、工学部で行われていた外部業者による英語講座を受講しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

インスタントの日本食、目薬などの常備薬、また日本のポストカードなどを持参すると良いと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。(成績が出ていないため、まだ申請できていません。)

Development and Change (Politic science: College of Arts and Social Science)

MDGs についてや安全保障と開発、環境問題と開発、などのトピックを幅広く扱いました。

Development and Culture (Anthropology: College of Arts and Social Science)

貧困や不平等について、人類文化学的な視点から考える授業。理論的なことから、マイクロファイナンスや先住民についてなどの具体的なトピックまで幅広く扱いました。

Crossing the border (Anthropology: College of Arts and Social Science)

世界各地の移民についての歴史的な背景や現状などについて。Lecture と Tutorial が分離せずに3時間続きの授業であり、毎回グループディスカッションとグループワークが中心の授業でした。

Gender and Cultural Study in Asia and Pacific (College of Asia & the Pacific)

太平洋地域やアジア地域におけるジェンダーに関わるトピック、また欧米の考え方をどのように受け入れてきたか等について考えました。3時間続きでディスカッションが多めでしたが、小規模クラスでクラスメイトと仲のよくなりやすい授業でした。

Development, Poverty and Famine (College of Business & Economics)

前半は計量経済学について、後半は開発に関わる歴史的に有名な Debate について。

Behavioural Economics : Psychology and Economics (College of Business & Economics)

行動経済学を多々の例を用いながら学ぶ授業。毎週の Problem Sets と期末試験で評価されました。

Organisational Behaviour (College of Business & Economics)

マネジメントの中級授業。

Culture and Human Diversity (Anthropology: College of Arts and Social Science)

Anthropology の Introduction コース。Anthropology とはどのような学問なのか、どのような分野を扱い、どのような考え方をするのか、を学ぶコース。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Lecture はすべて録音され、オンライン上でいつでもアクセス可能だったので、留学の初めの時期は特に復習に利用していました。Tutorial 前にLectureの復習をしていた授業、毎週の Problem Sets をする際に復習をしていた授業、毎週小テストがあったためリーディングで念入りな予習(小テスト勉強)をしていた授業など、勉強法はコースによって様々でした。行動経済学はLectureで多々の興味深い例に触れたことや教授のPower Point資料が魅力的だったため印象に残っています。また、自分の興味分野であった開発の授業はどれも面白く感じ、経済学、政治社会学、人類文化学それぞれの視点から学ぶことができた点が良かったです。

③ 学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり4コースがとることのできる最大コース数です。一つのコースは2時間のLectureと1時間のTutorialで成り立っています。中間や期末課題に加え、毎週の課題としては、Political Science や Arts の授業は毎週約50ページずつほどのリーディング、経済学の授業は毎週の Problem Sets に取り組みました。

④ 学習・研究面でのアドバイス

アカデミックエッセイの書き方(Structure, Reference など)を渡航前に学び練習しておく、現地ではより内容に集中して取り組むことができると思います。

⑤ 語学面での苦勞・アドバイス等

エッセイは日本人教授の方にご紹介いただいた語学の Department にいる講師の方に添削を数回お願いしました。また、ネイティブの友人に簡単な文法及び語彙のチェックをしてもらうことも多かったです。Tutorial のディスカッションでは苦勞することが多かったですが、少人数の授業やクラスメイトと仲良くなれそうな雰囲気がある授業をあえてとるなどの工夫をし、2学期目はより積極的に関わっていくことができたと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Burton and Garran Hall(オンキャンパスの自炊学生寮)。個室＋共有キッチン、トイレ、シャワー、ラウンジ。Domestic Students が半分、International Students が半分。アジアだけでなく、ヨーロッパからの留学生も多数いる点が他の ANU の寮と比べた際の特徴。

400 名以上の学生が利用する料理・食事をする巨大なキッチンが大きなコミュニティスペースで、友人と最も多くの時間を過ごした場でした。寮内、または寮対抗戦でのイベントが毎週のようにありました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は、冬は昼夜の気温差が激しい(朝は零下、昼間はコートが暑いくらい)ですが、それ以外はとて過ごしやすいくらいの気候でした。

大学が町の中心部に位置するため、徒歩や自転車のみでも寮から大学、買い物、きれいな湖、など様々なところにアクセスできます。私は交通費は月に5ドルも使っていません。外食は安くなかったため、食事はほぼ自炊していました。友人とパーティーをする際も、自炊で持ち寄りパーティーをすることが多かったです。

お金はほぼクレジットカードを利用し、キャッシュはあまり使いませんでした。現地で銀行口座をつくりましたが、こちらあまり使いませんでした。

携帯電話は、Optus という会社で、使えば1日1ドル、使わなければ無料、というプリペイド式の SIM と小さな機種を手に入れて電話を使っていましたが、その他は大学・寮内での Wifi でタブレットや iPhone を使っていました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

キャンベラの治安は極めて良いです。キャンパス内ならば、Security Bus という無料タクシーのようなものを利用して学内を夜に移動することができます。大学内に健康保健センターがあり、少し体調を崩した程度ならばそこで診てもらうことができます。私はキャンパスのはずれにある Travel Doctor というところで、夏季休暇にマレーシアに行った直前に予防接種を受けました。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費 75000 円ほど。その他の生活費は、食費 2 万円、消費財やパーティーなどで 5 千～1 万円ほど、計 3 万程度でした。

・留学に要した費用総額とその内訳

前項で記述した毎月の生活費の他に、

航空券代に往復約 12 万、教科書代は 0 円(指定教科書のない授業ばかり履修していました。)、ビザ申請に 5, 6 万円、初めにそろえた生活用品(布団、キッチン用品など)に約 1, 2 万円利用しました。

毎月の生活費が平均 11 万円だったとすると、総額で 11 万円×11 か月+(航空券+ビザ+生活用品、計約 20 万)で、費用総額は 140 万円ほどです。

④ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学を通して Fung 奨学金を月 7 万円(11 か月間)頂きました。

⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

1 学期目は寮でのスポーツ(タッチフットボール)やアカデミックイベント、交流イベントに多々参加しました。また、学外でも、保育園での日本語教室にボランティアとして参加させて頂いたり、キャンベラのコミュニティラジオに同席させて頂いたりしました。2 学期目は、留学中の長期休暇に経験したボランティア活動について、他の学生への発信、彼らの海外ボランティアへの準備支援を行いました。その団体では、チームリーダーを任せて頂くことができ、とても良い経験となりました。また、寮のスポーツ(バスケットボール)にも引き続き参加し、ANU ダンスクラブが運営するダンスレッスンにも時折参加していました。週末は課題に追われる週が多くありましたが、一度サーフキャンプに参加しました。学期半ばの 2 週間休みには、1 週間は旅行、1 週間は課題と試験勉強、という過ごし方をしました。2 か月半の夏季休暇には、留学中に見つけたプログラムでボランティアとしてマレーシアに行き、高校生キャンプにファシリテーターとして参加したり、孤児院を訪れたり、また東南アジアの他の地域を旅行するなどして貴重な時間を過ごすことができました。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

それぞれの教授の方が、Office Hour にとても丁寧に対応して下さります。また、アカデミックセンターで、アカデミックスキルについての講座も開講されています。滞在している寮に International Representative という代表学生がおり、彼らが多々の留学生イベントを開催してくれます。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は個別スペースやパソコンスペース、またソファが多々備わっており、快適な自習スペースでした。PC 設備については、図書館だけでなく寮に附属のパソコンルームをよく利用していました。スポーツ施設としては、大学内にジムがありましたが、私はジムに行くことがあまり好きではないため、寮のスポーツチームに参加したり、近くの湖に走りに行ったりなどしていました(とても景色がよくおすすめです)。大学の中心部に SUBWAY や巻

きずし、バーガーなどのお店が並ぶ小さなフードコートはありますが、値段が高くあまり充実した内容ではなかったため、寮に帰って自炊をすることが多かったです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

③ 今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

就職活動の前に留学したことで、海外の大学で学びながら興味分野探しができたこと、また海外で働くことへの興味が増したこと、などの影響があったと思います。

④ 留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

6月にいくつかの就活サイトへの登録はしました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

第一に、限られた時間の中で達成したいことをやり遂げようと欲張りにがむしゃらに行動したことで行動力がついたこと、留学そのものへの決断や、留学先で選考を通じて団体へ参加することができた経験などを通して、初めはハードルが高いと感じることでもフットワーク軽く様々なことに挑戦できるようになったことが大きな実りだったと思います。また、志望動機にも書いた通りの勉強をする一年にもなったと思います。一つのコースに多大の時間と労力を割くことで自分の好き嫌いや興味分野が良くわかり、また多量の文献を読みながらディスカッションを通して深めていく形式の授業はインプット・アウトプット共に刺激の多いものでした。議論においてもエッセイにおいても自分のアウトプット力にまだ物足りなさを感じながら留学期間を終えましたが、今後のアウトプット能力向上へのモチベーションを持ち帰ることができました。英語力に関しては、日常会話に加えグループワークやディスカッションの経験から、また第二外国語として英語を話す人を受け入れるオーストラリアの雰囲気から、自分の意見を伝えたいという意識面の向上や、完璧ではなくとも話すことに対する自分の心のバリアを取り払うことができたという点での進歩が大きかったと思います。最後に、やはり留学で得た世界にまたがる友人関係はとても貴重なものになると思います。互いの国についての知識だけでなく、彼らがどのように自分たちの将来や社会について考えているかを知ることができたことは、私が日本で当たり前だと思っていたことを疑う良い機会となり、自分が毎日を過ごす場から遠い所で起こっていることさえも自分の身の回りで起こっていることのように感じ、考えられるようになりました。

⑥ 学後の予定

この夏より、ゼミでの学習および就職活動に力を入れていく予定です。

⑦ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学の決断をする前、本当に意義ある留学なのか、目的ある留学なのかを深刻に悩んだ上に、自分への自信も不十分であり、なかなか思い切ることができていませんでしたが、今となっては今までの人生の中で一番して良かった決断だったと思っています。目標は行ってからも変わるものですし、行ってみないと知りえないこともあるかと思いますが、まずは少しでも行きたい気持ちがあるならば思い切って挑戦することをお勧めします。また、すでに留学を決意されている方には、自分がしたいこと達成したいことを考え直しながら、自分への期待を高く保ち続けることで、留学期間を最大限に活用できるかと思っています。また、2学期間滞在される方は、2学期目に新しいことに挑戦するなど、1学期目の生活に変化を加えてみると、より刺激的な経験ができるかと思っています。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

同じ大学に行った人からの話を聞くことが一番役に立ちました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 経済学部経済学科・4年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: Australian National University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

QS ランキングではオーストラリアで常にトップの大学。首都キャンベラに位置しており、人文学系に強みを持つ。

留学した動機

就職前に一度学生という自由が比較的ある立場で海外に在住し、未知の経験をすること、また異文化との交流に興味がありました。英語を話すのも好きだったので英語をすらすらと話せるようになりたいということもあり英語圏での留学を希望しました。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年7月 ~ 2015年6月 学部/修士/博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[5]年の[A1]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[5]年の[3~8]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[84]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[16]単位
留学後の取得(予定)単位[0以上]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年間
- ⑨留学時期を決めた理由:
上記動機に加え、就職活動の繰り下がりを受け留学後の就職活動がしやすくなったこともあります。留学を決意した段階ではオーストラリアと決まっていたわけではないですが、一般的な海外大学で一年間留学する場合は9~5月と就職活動に大きな支障をきたさないの、卒業を一年遅らせる価値があると判断しました。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
基本的に言われた書類を提出し、必要事項を記入すればいいだけです。ただ返信が遅いのでなるべく早めに取りかかり、分からないことは早めに聞くのを勧めます。学生証番号(u number)を取得した後はu number アドレスでメールをやりとりした方が返信が早くなります(u number 以外のメールは大学オフィスで迷惑メールフォルダに振り分けられるため)。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
インターネット経由でできます。E-visa で調べてください。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
オーストラリアの学生ビザを取得するには所定の専門機関の健康診断が必須です。都内には三カ所程しかないので、学期直前は繁忙期でごく稀に予約がとれないこともあるので、早めの健康診断の受信をお勧めします。ただ健康診断受信はビザ取得申請後に通知されてからでないと行えないものなので、ビザ申請の期間も考慮に入れてスケジュールを立ててください。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
AIUの留学生保険に加入しました。全ての範囲で保証が効きます。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
言われた必要書類を提出しました。単位互換については明確な記載がなく学部ごとに異なるのでしっかりと確認し、必ず言われたことをメモとして残しておいてください。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL 87 点

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日本食をたくさん食べてください。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

2nd sem: BUSI2023(Dynamics of Asian Business), BUSI2025(International Business), MGMT2033(Business Decision Making), MGMT2100(Communication for Business)

1st sem: STST1001(Introduction of International Security), BUSI2024(Business in Middle East),
BUSI3020(International Strategic Management), MKTG2033(Advertising)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

各科目週 3 時間(2 時間講義、1 時間チュートリアル)、その他授業にむけた予習で家庭学習にそれなりの時間を取る。

④学習・研究面でのアドバイス

課題が多く全てを直前に始めると非常に大変なので、計画的に取り組んで下さい。またあまりに勉強に偏りすぎて他の課外活動を逃すのももったいないので、寮内のイベントに参加するためにも普段の家庭学習も計画的に取り組んで下さい。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

食事付き寮、食事の際に多くの友達と話せるので語学力向上になり、また自炊にかける時間を大幅に節約できその点でも食事付き寮は最適な環境でした。

寮は食事付きなら Bruce Hall か Ursula Hall、自炊なら Burton and Garren Hall の三択を強くお勧めします。他の寮は国同士のコミュニティで固まってしまう、またそもそも周りとのつながりが希薄で語学力が伸びないといった弊害があります。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

治安は非常にいいです。基本的にカード社会です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

風邪をひくと色々厄介なので体調管理には気をつけて下さい。幸い風邪をひかずにすんだので病院等の情報は分かりません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費 1300\$ 交遊費 100\$未満

寮でたくさんのイベントが開かれていたのでそこまで外に出てお金を使うといったことはありませんでした。

・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

演劇(公演 6 本分)、Inward Bound(陸上スポーツ)、寮内の各種イベント

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

基本的に問題ないですが返事が遅いことが多々あるので注意が必要です。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は複数あります。Wi-Fi は基本的に建物内であればどこでも使えますがたまに止まります。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

オーストラリアは1学期終わりが6月なのですが、就職活動後ろ倒しの影響で全ての面接に間に合うことができました。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

地方勤務への抵抗がなくなります。そしてこちらの人の大らかな生き方や大学の勉強を生かそうとする姿勢は日本の世間体を気にする生き方と違い魅力的に映りました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

先輩や友達と電話で相談に乗ってもらったりしました。ESの締め切りはいくつかオーストラリアで迎えたのでそれは取り組みました。私はしませんでした。Amazonで就活のwebテスト対策本を買って各種試験に対策するくらいはできるかもしれません。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本と違って様々なバックグラウンドを持つ人々が集まり、その考え方に触れることができたのは今後の人生の考え方にいい意味で大きな影響を与えたと思います。当初は語学力が重要だと考えていましたが、そこを克服するとそこからさらに一歩先の深い議論や文化ごとの違いなどに触れることも大事だなと考えるようになりました。語学は手段であり上手い下手は一定のレベルを超えれば関係ないです。そこを越えた価値観や文化などの考察が最終的な醍醐味でありいい意味で大きな影響を与えたいと思います。

②留学後の予定

こちらの学生の授業に対する熱心さに感銘を受けたと同時に東大のレベルの高さを知ったので、卒業まで将来役に立ちそうな授業や興味のある授業をしっかりとって勉強したいと思いました。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

こちらの学生は大学生活だけでなく人生に信念を持って様々な活動に取り組んでいる学生が多いです。そのため大学に入り直す、卒業を遅らせる、ギャップイヤーを取る等やりたいことに打ち込んでいます。もし仮に留学のために卒業を遅らせることに抵抗がある場合でも、留学は卒業したらできない一生に一度の機会なので熟考して納得のいく結論を出してもらえればと思います。少なくとも私は心の底から留学してよかったと感じています。人生は一本道で回り道など存在しないので、卒業時期や周りの固定概念に振り回されずに考え抜いてほしいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):文学部3年

参加プログラム:全学交換留学

派遣先大学:オーストラリア国立大学

卒業・修了後の就職希望先: 2.専門職(医師・法曹・会計士等)

派遣先大学の概要

オーストラリア国立大学 Exchange program, College of Science

留学した動機

幅広く心理学を学びなおすため。

多彩なバックグラウンドを持つ学生たちのいる環境で学んでみたいと思ったから。

英語能力を伸ばすため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 学部[3]年の[冬]学期まで履修

②留学中の学籍: 留学

③留学期間: 2015年 2月 ~ 2015年 6月 学部[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部[4]年の[]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部[4]年の[8]月頃に(行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[44]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[8]単位
留学後の取得(予定)単位[52]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:サークルや寮での責任ある役割が終わり、就職活動前に留学できるのはこの時期しかなかったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

当たり前だがすべて英語なので、漏れの無いようにホームページをしっかりとチェックした方が良いと思います。また、問い合わせをしてから返信が来るまでが遅いので、早めに進めるとよいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

インターネット上でビザの申請ができます。健康診断を指定の病院で受けなければいけないので、早めにやっておくとよいと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学への入学手続きにあたって OSHC に入られますが、それとは別に日本の海外留学保険にも入らないといけません。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学籍を「留学」にした以外、特別な手続きはありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

海外に行ったことがなかったため、スピーキングやリスニングのレベルは高くなかったと思います。語学学習も英語の授業を少し履修した程度でした。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

ASIA1025 Culture and Society in Asia

ANTH2005 Indigenous society and culture

PSYC2002 Developmental psychology across the life span

PSYC3025 Abnormal psychology

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

かなり多い分量の予習の Reading が毎週課され、それをこなしていくので精いっぱいでした。印象に残っている授業は、アボリジニの人々の文化や社会について学んだ ANTH2005 です。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1 学期あたり 4 科目をとる必要があります。むこうでは 1 科目 6 単位で換算されます。週あたりの授業時間は、レクチャーが 2 時間×4、チュートリアルなどの少人数授業が平均 2 時間×4 の合計 16 時間でした。授業以外の学習時間は正確にはわかりませんが、課題などに費やした時間を含めると自由時間の大半を勉強に費やしたと思います。

④学習・研究面でのアドバイス

課題が多く、一つ一つが重い上に時期が様々なので、計画的に進めていく必要があると思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

正直最初はオーストラリア人の英語が聞き取れず、非常にあせりました。話すスピードに加え独特のアクセントがあり、慣れるのに時間がかかりました。慣れてからも口語表現がなかなか聞き取れなかったのが苦勞した点です。現地の学生とのコミュニケーションのため、さまざまな口語表現を学んでおくのも良いかもしれません。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮に宿泊しました。応募段階では食事付きの寮に応募しましたが、落選して食事無しの寮になりました。応募の際の自己アピールは気合を入れてたくさん書いた方が良いと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は非常に過ごしやすかったです。夏でも湿気が少なく、冬も日本ほど寒くありませんでした。大学までは自転車で10分ほどでしたが、キャンパス内の寮もたくさんあるのでそちらならさらに便利かと思います。食事は自炊だったので多少時間がかかりましたが、料理はよい気分転換になりました。他の学生はキッチンの使い方が汚かったのでそれは少し嫌でした。お金はデビットカードのサービスでATMからオーストラリアドルでまとめて引出し、現地で作った銀行口座に入れました。現地の口座のキャッシュカードにはPayWaveという機能があり、タッチするだけで口座から直接支払いができます。ほとんどのお店で利用でき大変便利なので、現地では口座を必ず作ってください。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

朝早くや夜に出歩くと危険だと言われていたので、気をつけました。食事は手を抜かず、バランスよく食べるよう心がけました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

13~14万(寮の家賃8万、食費その他5~6万)

・留学に要した費用総額とその内訳

総額 125万円

内訳:飛行機代25万(旅行の分を含む)、家賃40万、食費・教科書代など40万、娯楽・旅行費20万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung Scholarship 奨学金(大学を通じて応募)、日本学生支援機構奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮対抗のスポーツ大会に卓球部門で参加。学期終了後の休暇にはケアンズ、エアーズロックに旅行。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

結局あまり利用しませんでした。様々なサポート体制が整っていると思います。Japan Clubというクラブに参加すると、現地の学生と日本語と英語の両方で交流でき、非常にためになるようです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館やスポーツ施設は充実していました。PCは図書館にあります。若干数が不足気味です。食堂というものはなく、大学の一角にサブウェイなどのファストフードが集まるエリアがありますが、値段は安くありません。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

心理学をもう一度広い視点から学びなおせたことにより、自分の興味ややりたいことを再確認でき、やはりしっかり心理学を専門にしていきたいという思いが強まりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

私は参加しませんでした。オーストラリアでも日本の就職支援会社が行うキャリアフォーラムがあるので、興味があれば参加してみるとよいかと思います。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私の場合の留学は、今までサークルや寮の仕事、バイトなどに忙殺されて満足にできなかった「勉強」にしっかり取り組む貴重な機会でした。今までの大学生活の中でもっとも時間とエネルギーをかけて、しっかりと学問と向き合うことができ、自分が本当にやりたい学問を再発見できたと思います。また、月並みな言い方になりますが、日本とは全く異なる環境の中で自分という人間を見つめなおすことができました。全く新しい環境だからこそ見えてくるのは、自分の新しい一面というよりは、本当はわかっていたけれど見えなくなっていた「当たり前の自分」なのではないかと思いました。

語学力という面では、準備が不足していたことや半年間という短い期間もあり(期間を言い訳にするのはよくないと思いますが)、自分で納得のいく成長は得られませんでした。

②留学後の予定

一年遅れの卒業となります。次の学期から大学に復帰し、また来年の院試や就職活動の準備も進めていきたいと思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

語学能力を向上させたい人だけでなく、一度新しい環境に出てみたい人やもう一度自分の専攻の学問と向き合ってみたい人、また自分の専攻とは違う学問をしっかりやってみたい人など、ぜひ積極的に留学にチャレンジしてみるとよいと思います。決して無駄な経験にはならないと思います。語学能力を向上させたい人は、しっかり準備をして、現地でも英語を積極的に使っていろいろな環境に飛び込む覚悟を持って留学に臨んでみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

